

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 与論方言の文法

|       |                                                                                                        |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2019-11-29<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 町, 博光<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.15084/00002476">https://doi.org/10.15084/00002476</a>                      |

# 与論方言の文法

町 博光\*

## 1 はじめに

琉球方言は奄美諸島方言と沖縄本島・久米島を含んだ北琉球方言と宮古方言・八重山方言・与那国方言とに分けられる。さらに北琉球方言は、奄美方言と沖縄方言に分けるのが一般的である。ただし与論島方言は、北琉球方言の中の奄美方言に含まれるのか、沖縄方言に含まれるのか、議論の分かれるところである。

与論島方言は、茶花方言と東区（麦屋東・麦屋西）とそれ以外の地域（立長・城・朝戸・叶・那間・古里）に三分される。3地域の差はとくにアクセント・イントネーション面で著しく、島民は容易に聞き分けられる。東区と他の地域との差は音韻の面において著しい。

以下には、調査データに基づいて、動詞・形容詞・助動詞・助詞の文法的な特徴と敬語表現について見ていくこととする。例文は朝戸方言を中心に引用する。麦屋字との違いはそのつど断る。

## 2 動詞の形態論

### 2.1 動詞の活用

与論方言の動詞の活用形は、沖縄南部方言と奄美方言との特徴を併せ持っている。終止形に-N形と-i形が存在する。この両形の意味・用法差は他の奄美諸島方言と同様である。「書く」を例にとると、次のような差が認められる<sup>1</sup>。

kakjun（書く）（イ）文の動作主の動作意志が認められると話し手が判断した場合に用いる。

（ロ）非習慣的・個別的な動作の表現

（ハ）主観性の強い表現

kakjui（書く）（イ）文の動作主の動作意志の有無には着目しない。

（ロ）習慣的・一般的な動作の表現

（ハ）動作の客観的な表現

この指摘にもとづいて、与論方言の例で説明すると次のようになる。

1 wa:ga kakjun. 私が 書く。

---

\* まち ひろみつ：安田女子大学・教授

1 法政大学沖縄文化研究所『琉球の方言』（奄美大島宇検村湯湾方言）1976

## 2 ?ariga kakjui. あいつが 書く。

前者は「動作主の書こうとの意志」が認められる。したがって、-junによるのべたては一人称のときに用いられることが多くなる。後者には「動作主の意志」は認められず、「あいつが書いている」との事実の説明になっている。したがって、-juiは一人称・二人称のときは用いられず、おもに三人称のばあい用いられることになる。

## 2. 2 活用形のタイプ

与論方言の動詞の活用タイプは、

kakjun「書く」 kaki「書き」 kakannu「書かない」 kaci「書いて」

の4つの形から説明することができる。（『与論方言辞典』pp.793～794を整理して引用した。）kak-, kac-を語幹とし、-jun, -i, -annu, -i を活用語尾とする。これをもとにして『与論方言辞典』では規則動詞に5型、規則動詞に4型を認めている。

表1 与論方言の動詞の活用タイプ

|       |                      |                                                  |
|-------|----------------------|--------------------------------------------------|
| 規則変化  | 1型                   | ①書く ②刺す ③飛ぶ ④飲む ⑤漕ぐ ⑥死ぬ ⑦行く ⑧置く<br>⑨持つ ⑩取る       |
|       | 2型                   | ①助ける ②あげる ③寄せる ④立てる ⑤撫でる ⑥比べる<br>⑦集める ⑧倒れる ⑨引き出す |
|       | 3型                   | ①干る ②見る ③くびる ④要る ⑤言う                             |
|       | 4型                   | ①追う ②問う ③思う                                      |
|       | 5型                   | ①使う                                              |
| 不規則変化 | ① する ②来る ③有る ④いらっしゃる |                                                  |

規則変化の1型は、カ・サ・バ・マ・ガ・ナ・カ・タ・ラ行の四段動詞に対応している。ハ行四段動詞で語幹末尾がoやuのものは4型、四段動詞で語幹末尾がaのものは5型に対応する。

2型は、カ・ガ・サ・タ・ダ・バ・マ・ラ行の下二段動詞に対応している。

3型は、上一段動詞に対応する語と四段動詞の「くびる」「言う」に対応する。

不規則変化を見せるものは、それぞれ本土方言の変格活用に対応する。不規則変化の「①する」「②来る」は、否定の形がsjannu, kjannuであれば規則変化の4型と同じになる。不規則変化の?ajun「③有る」の否定形は、?arannuは「～ではない」の意である。「無い」はnennuとなる。「④いらっしゃる」は語幹の形が活用形によって変化する。

表2 与論方言の活用体系

| 語例   | 未然形   | 連用形   | 接続形    | 終止形1    | 終止形2    | 連体形      | 条件形   |
|------|-------|-------|--------|---------|---------|----------|-------|
| 1 書く | kak-a | kak-i | kate-i | kak-jun | kak-jui | kak-juru | kak-i |
| 飲む   | num-a | num-i | nud-i  | num-jun | num-jui | num-juru | num-i |

|              |           |           |            |           |           |            |           |
|--------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|
| 2 助ける        | taeikir-a | taeikir-i | taeikit-i  | taeik-jun | taeik-jun | taeik-juru | taeikir-i |
| あげる          | ?agir-a   | ?agir-i   | ?agit-i    | ?ag-jun   | ?agju-i   | ?ag-juru   | ?agir-i   |
| 3 干る         | p-ja      | p-i:      | pite-i     | p-jun     | p-jui     | p-ju:ru    | p-i:      |
| 見る           | m-ja      | m-i       | mite-i     | m-jun     | m-jui     | m-ju:ru    | m-i:      |
| 4 追う         | ?w-a      | ?u-i      | ?u:t-i     | ?u:-jun   | ?u:-jui   | ?u:-juru   | ?u-i      |
| 思う           | m-a(:)    | mu-i      | mu:t-i     | mu:-jun   | mu:-jui   | mu:-juru   | mu-i      |
| 5 使う         | teiQk-o   | teiQk-e:  | teiQko:t-i | teiQk-en  | teiQk-ei  | teiQk-e:ru | teiQk-e:  |
| ① する         | eir-a     | eir-i     | eite-i     | e-jun     | e-jui     | e-juru     | eir-i     |
| ② 来る         | k-u       | k-i       | kite-i     | k-jun     | k-jui     | k-ju:ru    | kur-i     |
| ③ 有る         | ?ar-a     | ?ar-i     | ?at-i      | ?a-jun    | ?a-jui    | ?a-ju:ru   | ?ar-i     |
| ④ いらっ<br>しゃる | ?w-a      | ?j-e:     | ?wa:te-i   | ?j-en     | ?j-ei     | ?j-e:ru    | ?j-ei     |

規則動詞の1型には、語幹に kak- と kac- の両形があることがわかる。2型には tasik- と tasikir-, tasikit- の3形、3型には p と m など語幹が子音1音のみのものが該当する。4型には語幹が4形 (C-, Cu-, Cu:t-, Cu:- <Cは子音音素>) あり、子音音素1音のみのものが該当する。5型は活用語尾の母音が o や e になるものが上げられる。

不規則動詞の「①する」は標準語の「する」に対応する。規則動詞の4型と同様の活用パターンを示す。「②来る」は未然形が k-u である。k-a であれば、規則動詞の4型に対応する。「③有る」は「する」と同様の活用パターンをみせるが、否定形は arannu となり en (である) の否定形と同形となる。以下には各活用形のはたらきを見ていくこととする。

## 2. 3 活用形の用法

### (1) 未然形

#### ① 仮定条件を表す

wa:ga kakabo: ?uran kakjo:. 私が 書いたら おまえも 書けよ。

kakabo: [kakabo:] は [kakaba] の形でも実現する。ただし [kakaba] は、係り助詞 du を下接することが多い。

?uraga kakabadu wanun kakju:ru. おまえが 書けばぞ (書いたら) 私も 書く。

#### ② 否定形に接続する

否定の形には2形がある。-nnu は自己の判断や推測を否定するばあいには用いられる。もう一方は -dzi に対応して客観的な状況を否定するのべたてに用いる<sup>2</sup>。

2 町博光「奄美諸島と論島方言の否定表現—nu (<ヌ>) と dzi (<ズ>) の用法差を中心に」『言語学林1995-1996』(1996)

dzi:du kakju:ru. e:ja kakannu. 字を 書く。絵は 描かない。

wa:ga kiteantein sa:dzi. 私が 来てあっても 知らない。(私が来ても気づかない。)

### ③ 意志・勧誘法

未然形に意志を表す -N (「む」に相当) がついて意志や勧誘を表す。

wana: dzi: kakan. 私は 字を 書こう。

de:ba: ma:dziN ?ikan. さあ いっしょに 行こう。

### ④ 願望表現法

wanun kakadana. 私も 書こう。

-dana を下接して願望表現をしたてる。-dana による願望表現は、-teasai や -bucai などによる願望表現ほど強い願望ではない。「書こうかどうか」と揺れているような心情の表現である。

## (2) 連用形

### ① 名詞を作る

?arja: kakin eiriba jabuin eun do:. あいつは 書きも するが、破りも する よ。

kakin eirannu jumin eirannu. 書きも しないし 読みも しない。

?arin kakiga eu:ra. あいつも 書くだらう (書きがする) か。

kakiがいわゆる連用中止形となる。とりたての名詞形のばあい、kateiとなる。

?urin katei ?arin katei naraei. それも 書き これも 書き (して) すませ。

### ② 接辞を接続させる

wa:ga kakju:kutu ?uran kaki. 私が 書くから おまえも 書け。

nu:jin kamangane:ei kakibai eui. 何も 食べないで 書きばかり する。

-kutu は「こと」に相当する原因・理由を表す接辞である。-bai は「ばかり」に相当する。

## (3) 接続形

複文において、従属文の述語の位置にくる動詞の形である。

kino:jin katei cu:jin kakjui. 昨日も 書いて 今日も 書く。

## (4) 終止形

終止形には2形があることは先にふれた。ここでは『与論方言辞典』の記述にしたがって、-juiと-jun の用法差を見ておく。

### ① のべたて法

『与論方言辞典』には「のべたて法」として kakjui と kakjun の2形をとりあげ、以下のように説明している。(p.782)

arja: zi: kakjui.

「彼が字を書く (客観的・報告的のべたて)」

この -jui によるのべたては、彼が目の前で書いているという事実の報告のニュアンスがある。したがって、主語が一人称と二人称のときには使うことができない。これに対して、-jun によるのべたては、wa:ga kakjun というように主語が一人称のばあい

も使うことができる。これは自分の意志を表現しているニュアンスがある。(中略)

arja: zi: kakjun.

「彼は字を書く(主観的・推量的のべたて)」

## ② たずね法

たずね法には、文中に疑問詞を含まないア) 一般たずね法とイ) 解答をもとめないうたがいとウ) 疑問詞を用いたたずね法がある。

### ア) 一般たずね法

?uraga kakjummi:. おまえが 書くか。

mi: は mui の形でも実現する。mui はやわらかな表現となる。

?uro: kakjundu kakandu. おまえは 書くか 書かないか。

du でむすぶたずね法は、「?undu girannudu. やるかやらないか。」のように相手に判断をもとめるたずね法である。

### イ) うたがい

うたがいは自分自身に問いかける気持ちが強く、相手に判断を求める気持ちの弱いたずね法である。

?arin tegami kakju:ra. あいつも 手紙を 書くだろうか。

?arin tegami kakju:raga. あいつも 手紙を 書くだろうか。

?arin tegami kakjunge:ra. あいつも 手紙を 書くだろうか。

終止形 kakjun に -nge:ra (かしら) がついてうたがいの気持ちを表している。kakjunge:ra が省略された形が kakju:ra と kakjuraである。

### ウ) 疑問詞たずね法

文中に疑問詞を含んで、相手に説明を求めるたずね法である。連体形と同じ形で文を結ぶばあいと共通語の「書くのか」にあたる形で結ぶばあいとがある。連体形で結んだばあいのほうが話者の感情が強く表れている。

nuga ?umanan dzi: kakju:ru. どうして ここに 字を 書くのか。

nu:nati ?umanan dzi: kakjunga. どうして ここに 字を 書くのか。

「いつ」「どこに」「だれが」「何で」の例を示しておく。いずれも ga で疑問を表している。

?itei ?umanan dzi: kateanga. いつ ここに 字を 書いたのか。

?idanai kateanga.→?umanai katean. どこに 書いたの。→ここに 書いた。

ta:ga ?umanan dzi: kateanga. だれが ここに 字を 書いたのか。

nu:ei ?umanan dzi: kateanga. 何で ここに 字を 書いたのか。

## (5) 連体形

動詞が名詞の前にきて、名詞を修飾する形である。共通語では、連体形は終止形と同型であるが、与論方言では終止形と異なる。

wa:ga tegami kakju:ru nage: matteuri. 私が 手紙を 書いている あいだ まっておれ。

また, du「ぞ」の係りを受けて係り結びを完成させている。

dzi:du kakju:ru.ʔe:ja kakannu. 字(ぞ)を 書く。絵は 描かない。

#### (6) 条件形

未然形では、仮にあることがらが起きたらということを前提とするいわゆる仮定条件を作るが、条件形ではすでに起きたことを前提にした確定条件を表す。

wanun dzi: kakibo: ʔe:tan. 私も 字を 書けば よかった。

以上、動詞の各活用形の用法を概観してきた。動詞の活用形の用法を、受け身形や使役形あるいはテンスやアスペクトの観点から詳細に検討する必要がある。ここではふれることができなかった。

## 2. 5 補助動詞

補助動詞の活用形の働きを丁寧体の -bjun を例にして見ていこう。-bjun は動詞の連用形に接続して、丁寧な表現を形作る。

#### (1) 未然形

否定形に接続する。否定の形には2形がある。丁寧体も動詞の使い分けと同様である。-nnu は自己の判断や推測を否定するばあいに用いられる。一方の -ɬi は客観的な状況否定に用いられる。

dzi:du kakja:bjun:ru. ʔe:ja kakja:birannu. 字を(ぞ) 書きます。絵は 描きません。

matteanntin matteanntin kja:biradzi. 待っても 待っても いらっしゃいません。

推量法は、-bju:ra の形をとる。

ʔattea:ja: cikkama tatea:bjun:ra. 明日の 朝 お立ちになるでしょう。

#### (2) 連用形

wa:ga kakja:bjun:kutu ʔure:jin kateiʔwa:ri. 私が 書きますから あなたも 書いてください。

原因・理由を表す接辞 kutu に接続している。

#### (3) 接続形

kino:jin katea:bjui ɕu:jin katea:bjui . 昨日も お書きになり 今日も お書きになる。

#### (4) 終止形

終止形に2形があることは丁寧体でも同様である。

ʔanu pitea: dzi: kakja:bjui. あの 人は 字を お書きになる。

三人称が主語となり、「書いていらっしゃる」という事実の報告のニュアンスがある。これに対して、-bjun は主語が一人称のばあいも使うことができる。これは自分の意志を丁寧に表現している。

wa:ga dzi: kakja:bjun. 私が 字を 書きます。

#### (5) 連体形

終止形と形態が異なる。名詞に係ることを基本とする。

ʔure:ga tegami kakju:ru nage: matteura. あなたが 手紙を 書いていらっしゃる あいだ、  
待っていきましょう。

また du (ぞ) を受けて係り結びを完成させる。

dzi:du kakja:bju:ru. ʔe:ja kakjibirannu. 字 (ぞ) を 書きます。絵は 描きません。

#### (6) 条件形

すでに起きたことを前提にした確定条件を表す。

ʔure:ga dzi: katea:biribo: naju:taru munu. あなたが 字を 書いていらっしゃれば  
よかった のに。

### 3 形容詞の形態論

与論方言の形容詞には、2系が認められる。語幹末尾が-sa (ク活用形容詞) であるものと-sjan (シク活用形容詞) のものとである。ta:-san (高い) su-san (白い) のように sa 語尾を持つものと、mizira-sjan (珍しい) haba-sjan (香ばしい) のように -sjan 語尾を持つものとである。それぞれ「語幹+さ+あり」、「語幹+しさ+あり」に対応している。次表に san 活用形容詞の takasan<sup>3</sup> (高い) magisan (大きい) , miziracan (珍しい) eida:can (涼しい) の活用形をまとめておく。

表3 与論方言形容詞の活用

|           | 条件形1        | 条件形2       | 終止形1      | 終止形2      | 連体形        | 接続形        |
|-----------|-------------|------------|-----------|-----------|------------|------------|
| takasan   | takasara    | takasari   | takasan   | takasai   | takasaru   | takasati   |
| magisan   | magisara    | magisari   | magisan   | magisai   | magisaru   | magisati   |
| miziracan | miziracara  | miziracari | miziracan | miziracai | miziracaru | miziracati |
| eida:can  | eida:carara | eida:cari  | eida:can  | eida:cai  | eida:caru  | eida:cati  |

#### 2. 1 形容詞の用法

##### (1) 文末での用法

##### ①のべたて法

終止形には2形ある。

ʔunu saija takasan. この 酒は 高い。

ʔunu saija takasai. この 酒は 高い。

takasanは、他と比較しても高いという客観的な表現である。takasai は自分の判断として高いとする主観的な表現である。過去のいいきりの形も2形に別れる。

ʔunu saija takasatan. この 酒は 高かった。

ʔunu saija takasatai. この 酒は 高かった。

3 麦屋方言では、ta:saiとなる



前者は高かったと明確に述べるのに対して、後者には高かったらしいとのおしはかる気持ちが認められる。確信推量を表すには、「連体形+padzi (はず)」で表す。

Φunu saija takasataru padzi. この 酒は 高かった はず (だろう)。

## ②たずね法

一般的なたずね法では、文末に mi (:)を付けて疑問を表す。-mi: は-mui で実現されることもある。-mui はやや古風な言い方である。

Φunu saija takasammi:. この 酒は 高いか。

Φunu saija takasammui. この 酒は 高いか。

過去のたずね法にも-mi:または-muiを付けてたずねる。

Φunu saija takasatammi:. この 酒は 高かったか。

Φunu saija takasatammui. この 酒は 高かったか。

疑問詞でのたずね法は、文末に-ga をつけて表す。連用形、終止形1、終止形2につく。

?iduruga takakuga. どちらが 高いか。

?iduruga takasanga. どちらが 高いか。

?iduruga takasaiga. どちらが 高いか。

takakugaとtakasanga は一般的な事実の確認をしているニュアンスがある。両者ともに話し手の確認を求めているのに対して、takasangaはより客観的な判断を要求している。takasanga はいくぶん古風な感じを受ける。takasaiga は眼前で比較をしている両者にたずねている。-i終止形と-N終止形の用法差が認められる。動詞の終止形-junと-juiの用法差と同様である。推量形 -ra で話し手の疑いをあらわす。

Φunu saija takasara. この 酒は 高いだろうか。

## (2) 連体法

係助詞 du の結びとなって係り結びを完成させる。

Φunu saidu takasaru. この 酒 (こそ) が 高い。

体言にかかり連体修飾をおこなう。

takasaru saidu masaru. 高い 酒 (こそ) が おいしい。

準体名詞 ei にかかるばあい、連体形 takasaru の-ruが脱落する。takasaruei とはならない。

takasacidu masaru. 高いの (こそ) が おいしい。

## (3) 連用法

用言にかかり、状態の変化や動作の方向をあらわす。

takaku najun. 高く なる。

## (4) 接続法

接続形はtakasatiである。ta:sati の形で表れることも多い。

takasatin hon. 高くても 買おう。

並べ立てる用法は、

?arin takasai φurin takasai. あれも 高いし これも 高い。

となる。

条件形には2形が認められる。

takasarabo: honnu. 高ければ 買わない。

takasaribo: honnu. 高ければ 買わない。

前者はいわゆる仮定条件であり、後者はいわゆる確定条件である。

#### (5) 否定法

否定形は -ne:、-nnuの形をとる。

?unu saiya takaku ne:. その 酒は 高く ない。

?unu saiya takaku nennu. その 酒は 高く ない。

-ne:は話者の主観的な判断であり、-nnuは客観的な判断である。過去の否定形は、-nentan となりnuが脱落する。

?unu saiya takaku nentan. その 酒は 高く なかった。

### 4 助辞のはたらき

今回の調査で得られた資料（文法）から、与論方言におこなわれる接辞を整理しておく。例文の番号は、調査資料の番号である。共通語訳は資料にしたがう。

#### 4. 1 はだか格

はだか格は、名詞が格助辞をともなわない形である。主格を表す「が」や所有を表す「ぬ」が、はだか格となっている。連用格としては動作の対象を表す「を」と「に」に対応している。

40 wana: ta?unu saeimi koretcasai. おれは 蛸の さしみが 食べたい。

37 u?uja eikkamakara u?kati ?ju: tu?na je:tan. じいさんは 朝から 海へ 魚を とりに いった。(事実の報告/目撃過去)

41 uro: ?unu ?ju:nu na: eitteummui. おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。

69 amma:ja iteibakati ?e:munu ei?na {idzi tju:sa. (事実の報告) / ikju:tan. (目撃過去)}.

かあさんは 市場へ 買物に 行った。

70 miteino:ti gakkono: einse: itteo:tan. 道で 学校の 先生に 会った。

#### 4. 2 ga (が) 格

ga 格は、動作の主体を表し、文の中で主語をあらわす。

02 ?uraga pattaikati ?iki. (年下に) / ?ure:ga pattaikati ?wa:rjo. (年上に) おまえが 畑へ 行け。

03 NN, pattaikatja: wa:ga {?ikjun / ?ikjundo: (目上へに)}.

23 ?umagaga ?udukara to:kjo:nai ujun. 孫が 去年から 東京に いる。

53 ?udu itokoga teu:gakko:nu einse: nati. 去年 いとこが 中学の 先生に なった。

基本的に、ga をともなう名詞は人称代名詞や人を表す名詞に限定されていて、人が主語であることを示している。

?ure:ga ?wa:rja:. あなたが いらっしやいよ。

jakaga ʔe:tan. 兄が いらっしやった。

など目上の人にも ga を用いている。しかし、おなじ敬意の対象になる「先生」や「町長」には nu 格が使われている。

einei:nu ʔwa:tei. 先生が いらっしやった。

teo:teo:nu ʔaisatsu eiteiʔe:tan. 町長が あいさつ していらっしやった。

to:kjo:nu pitunu ʔei. 東京の 人が いらっしやる。

これらの nu 格は ga 格には置き換えられない。ga 格と nu 格の使い分けには、まだ検討の余地が残っている。

#### 4. 3 nu (の) 格

nu 格をとまなう名詞は自然物であり、ga 格をとまなう名詞は人称代名詞や人物名詞であり、使い分けがなされている。

15 mitea: pju:sai. 道が 広いなあ。

17 kino:ja {çu:je:kuman~çu:je:kuman} hadinu {teu:sai / teu:satan}. きのは 今日より  
風が 強かった。

18 maciruka euru tuinu tintu: tudi ʔaikjui. 真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。

38 ɸumo: {uŋkati / unnu}kja:sanu ʔju:nu masai. ここは 海に ちかいので 魚が うま  
い。

74 hanakonu teiro: amma:tu kawatti jiteui. 花子は 顔が かあさんに よく 似ている。

#### 4. 4 nonti (で) 格

nonti は、さまざまなバリエーションで表れる。資料で得られた例文を列挙しておく。

70 1. miteina:nunti gakko:nu sense:tu itteo:tan. 道で 学校の 先生に 会った。

これは「古里・那間・叶」の例である。「茶花・立長」では、

70 2.miteina:di gakko:nu eince:tu{itteo:tan. (敬語) / o:ti / o:tan (非敬語) } 道で 学校の 先生  
に 会った。

と回答されている。「朝戸・城」では、以下のようにになっている。

70 3.mitei:no:ti gakko:nu eince: itteo:tan. 道で 学校の 先生に 会った  
麦屋西区でも no:ti が聞かれ、麦屋東では nonti と回答されている。

70 4.miteino:ti gakko:no sense:tu o:tan. 道で 学校の 先生に 会った。

70 5.miteina:nonti gakko:nu eince: itteo:tan. 道で 学校の 先生に 会った。

ei は動詞 sjun (する) の中止形から派生したものとされる<sup>4</sup>。

#### 4. 5 ei (で) 格

10 jambarukatja: ɸujiei ʔikjuee:{kuman~kuma:N} ɕiko:kiei ʔizaruho:ga jutacai. 沖縄には 船で  
行くより 飛行機で 行った ほうが いい。

60 saburo:ja dzero:in bo:ei {utariti (事実の報告) / utarju:tan. (目撃過去)}. 三郎は 次郎に 棒で

4 高江洲頼子『琉球方言の動詞、形容詞の形態論に関する調査・研究』（平成21年3月）p.92

なぐられた。(事実の報告/目撃過去)

- 58 wutuwa daiei tiru tsukuti. (事実の報告) / wutuwa daiei tiru tsukuju:tan. (目撃過去) 夫は 竹で  
かごを つくった。(事実の報告/目撃過去)  
手段, 道具, 材料などを表す。共通語の「で」に相当する。

#### 4. 6 daki (だけ) 格

共通語の「だけ」に相当する。56 の例は, daki に係の接辞 du が後接したものである。結びが -ru となり, 係り結びが完成している。

- 36 ʔumago: manzu:ja ho:daki koren. 孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。  
56 ʔunu panaea: tudzikatidakidu kicatearu. その 話は 妻にだけ 聞かせた。

#### 4. 7 nati 「ので」 格

23 2 jimuteunu unsanu wattaiei muttean. 荷物が 重かったので 二人で もった。  
23 3 ji:muteinu ʔumusatarunati taiei muttean. 荷物が 重かったので 二人で もった。  
上例が朝戸・城の例であり, 後者が茶花・立長の例である。nu はどちらかということ客観的に理由を説明する表現であり, nati は主観的に理由を説明する表現に多い。

#### 4. 8 ntana (まで) 格

場所にも時間にも使われる。

- 27 ʔo:sakakara {to:kjo:nta:ranu / to:kjo:nta:nanu} kicatejna ʔiteasadaraga. 大阪から 東京までの  
汽車賃は いくらだろうか。  
29 {gozinta:ra / gozinta:na} muduribadu 《najui》. 五時までに 帰らなくては ならな  
い。  
30 ziro:, ʔunu mi:muteintea: ja:{nta:ra / nta:na} haigiti {muteizi kuriri (持って行ってくれ) / ʔizi  
kuriri (行ってくれ)}. 次郎, この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。

#### 4. 9 e:kuma (より) 格

- 17 kino:ja {çu:je:kuma~çu:je:kuma} hadinu {teu:sai / teu:satan}. きのは 今日より 風が  
強かった。  
39 ʔju:je:kupa cieinu hataga takasai. (ʔju:je:kupaでは j はその前のuの影響で ʔju:wje:kupa に  
聞こえる) 魚より 肉の ほうが 高い。  
「AよりもBのほうが」といった比較を表す。

### 5 与論方言の地域差

与論方言は, 茶花方言と東区(麦屋東・麦屋西)とそれ以外の地域(立長・城・朝戸・叶・那間・古里)に大別される。今回の資料をつぶさに検討して, 文法的な側面から地域差を見いだそうと試みた。文法的な面ではほとんど差は見いだせなかった。例文 19 や 23 の「いる」が麦屋東・麦屋西で ʔujun (他の集落は wujun), 68 「なおるだろう」の推量形が ʔadzi (他の集落は

padzi) など音声的な差が指摘されるだけであった。方言の差異はまず音声から耳立つということであろう。

## 6 おわりに

奄美群島の最南端に位置する与論島の方言は、沖縄南部方言との似通いがこれまでもよく指摘されている。とくに音韻の面で、奄美大島方言や徳之島方言との隔たりは大きく、音韻面での沖縄南部方言との近さがこれを裏付ける。一方で、動詞の終止形に2形あることなど奄美方言としてのまとまりも認められる。与論方言が奄美方言と沖縄南部方言のどちらに分属されるかは、どのような言語的特徴に焦点を当てているかで決まってくるのだろう。与論方言の方言区画上の位置は、まさに奄美方言と沖縄南部方言との境界にあると言える。